大阪 YMCA 国際専門学校
校　長　山根　一毅

2025 年度自己点検・自己評価について（国際高等課程）

Ⅰ．当校における自己点検・自己評価の取り組みについて

本校では、2005 年度から全国にある YMCA 専修学校とともに YMCA 独自の自己点検・自己評価を実施し、教育の改善に努めてまいりました。2007 年度の学校教育法および同法施行規則の改正により、専修学校においても 2009 年度から自己点検・自己評価が義務づけられたことを契機に、自己点検・自己評価の内容を同法に沿う形に改め、実施に取り組んでいます。

Ⅱ．2025 年度自己点検・自己評価の結果について

（1）全体的な傾向

自己点検・自己評価者の対象範囲を常勤職員にも拡大したことで、各教職員の学校に対する理解度や設問の捉え方による評価の差異も一部で見られました。一方、全体的な傾向として評価平均は 3.3（4 段階評価）で推移しており、昨年度（概ね 3.0 前後）を上回る安定した高評価を得ております。昨年度の課題であった学科間の大きな評価差は、大項目平均（表現コミュニケーション学科、以下表コミ：3.3、国際学科：3.2）をはじめ、「生徒支援」「生徒の受入れ募集」等で同等となり、縮小傾向が見られます。0.5 ポイント以上の開きが生じたのは「教育理念・目的・育成人材像」（表コミ：3.4、国際学科：2.9）の 1 項目のみにとどまりましたが、細目の一部では依然として国際学科の慎重な評価が見受けられます。その要因として、同校（国際学科）には分析的・批判的思考を重視する教職員が多く、その強みが発揮されている反面、生徒の著しい成長や達成成果をやや過小評価する傾向にあることが挙げられます。今後は、学校における成果や実績を教職員間で適切に共有する時間およびシステムの強化を図ってまいります。

項目別では、「法令等の遵守（3.6）」「国際交流（3.6）」「生徒支援（3.4）」「生徒の受入れ募集（3.4）」「学修成果（3.3）」「社会貢献・地域貢献（3.3）」、ならびに教育活動内の「教職員（3.4）」などが 3.2 を超える高評価となりました。一方、昨年度唯一 3.0 以下（2.9）であった「教育環境」は今年度 3.1 へと改善し、大項目 11 項目すべてで 3.0 以上を達成いたしました。ただし、施設・設備の充足度に関する細目設問は 2.6、と依然として課題が残ります。両学科を通じて、教職員が生徒指導や学校運営に尽力し、密な情報共有を行った成果がこれらの結果に表れていると推察されます。

（2）項目毎の現状・課題と改善方策

（1）教育理念・目的・人物育成人材像

①現状と課題

・教育理念の明確化について

本校は 1980 年に大阪府より専修学校としての認可を受け今日に至っており、高等課程では国際学科を 1988 年、表現・コミュニケーション学科を 2005 年に開設しております。しかし、その歴史は 1882 年の大阪 YMCA 創立以来、最も古い記録では 1893 年の英語夜学校設立まで遡ることができます。キリスト教精神に基づいて始められた YMCA は、「精神」「知性」「身体」の調和の取れた全人教育を理念としており、本校もこれを教育理念として掲げております。

今回の自己評価は平均 3.2 を保っておりますが、学科別に見ると国際学科の評価が低くなっております（表コミ：3.4、国際学科：2.9）。特に「分野ニーズへの方向づけ（2.4）」や「将来構想（2.8）」において慎重な評価が見られます。一方で、パンフレットや Web サイトへの明記

に加え、国際学科では「スクールモットー」が生徒の振り返りの基準となるなど、強い存在感を持っています。教職員の評価が慎重となっている背景には、「教育理念」に対する教職員の受け止め方や、成果共有の度合いが影響していると考えられます。

②今後の改善方策

「教育理念」の浸透を図るため、中学校訪問や外部説明会での周知を強化し、入学前からの理解促進を進めてまいります。国際学科におきましては、理念に基づいた実践や生徒の成果を教職員会議等で共有・可視化し、将来構想に向けた共通理解を深めるとともに、理念が日々の指導に結びつく機会を増やしてまいります。各種広報媒体を通じて理念を明確に打ち出し、関係各所に対しても一層の理解が得られるよう努めてまいります。

(2) 学校運営

①現状と課題

学校法人大阪 YMCA では 10 年単位のビジョンを策定し、これに基づき 2～3 年単位の中期事業計画を立て、さらにこれらをもとに法人に属する各学校の年度単位の事業計画を策定しております。本校におきましても、このプロセスを経て中期および年度単位の事業計画に基づいた学校運営を行っております。自己評価におきましては 3.1 となり、昨年度（3.01）と同様に安定した高い評価を示いたしました。意思決定の透明性や情報共有は一定の評価を得た一方で、事業計画の策定等において学科間で認識に開きが見られる部分もございます。

・運営組織や意志決定機関について

上記学校運営に関わる事業計画は、理事会・評議員会で意思決定され、学校法人経営会議および運営会議がそれを受けて具体的な運営を行っております。本校におきましては、高校生事業会議でさらに学科の責任者がそれぞれの部門の目標・役割を明確にしつつ、部門同士の連携を図りながら運営を行っております。また、各部門の所属スタッフは、責任者より示された職務分掌に従って目標を理解し、役割と責任を果たしております。

設問「運営会議や判定会議等、必要な意思決定に自分が参加できている実感があるか」においては 3.5 となり、昨年度（3.3）を上回る高い評価を得ました。両学科ともに高い数値を示しており、「学校運営に参加できている実感がある」ことを教職員のモチベーションとして大切にしている本校の運営の特徴が十分に反映されたと考えられます。一方、「組織運営上有効な意思決定が行われているか」は 3.0 にとどまり、学科間における意思決定プロセスの共有に課題が窺えます。

・人事や処遇に関する制度について

定年制教職員の採用・人事・研修（一部の非常勤教職員対象を含む）等に関しては本部事務局が管轄し、常勤・非常勤教職員の採用や人事に関しては各学校が管轄しております。これらの要員計画は、事業計画に基づいて策定しております。また、定年制教職員の処遇に関しては人事考課制度（MBO の活用による評価制度）を導入し、これに連動した昇進・昇給および賃金規程を定めております。各種規定等の整備に関する自己評価は 2.9 となっております。

・情報公開について

自己点検・自己評価、学校関係者評価および財務情報につきましては、Web サイト（ホームページ）上で公開しております（自己評価 3.2）。

本部事務局には ICT 室が設置されており、全事業所における業務管理と効率化を図り、継続的な業務改善を進めております。また、個人情報保護の観点から、すべてのパソコンにおいて USB 等の外部メディアの使用を禁止しております。

②今後の改善方策

運営情報の周知を強化するため、教職員会議での情報共有を徹底し、教職員全体に方針が確実に伝わる仕組みを整えてまいります。また、情報公開の方法につきましても、Web サイト等を通じて分かりやすい形で提供し、透明性の高い学校運営を推進してまいります。

(3) 教育活動

①現状と課題

(目標の設定等)

教育理念等に沿った教育課程の編成・実施につきましては、教育理念を具現化するための適切な教育課程を編成しており、授業のみならず個々の学校行事につきましても毎年丁寧な見直しを行っております。また、各学科の特色に基づき、毎年教育目標の点検を行い、目標達成に向けた年間計画を策定・実施しております。

(教育方法・評価等)

時代のニーズや生徒構成の変化に合わせてゴールを明確化し、これらをカリキュラムへ適切に反映させております。カリキュラムにつきましては毎年見直しを行っており、今年度は 3.3（昨年度：3.0）と高い評価を得ることができました。一方、教科会議の開催頻度には学科間で差が見られるため、頻度の低い学科におきましては、計画的な実施を進めるとともに適切な運用を図ってまいります。授業評価につきましては 3.0 となり、昨年度の課題を踏まえた仕組みの導入と実施が進みつつあります。また、成績・進級基準（3.1）や資格取得（表コミ： 3.0、国際学科：2.4）におきましても昨年度（各学科 2.0）から改善が見られたものの、国際学科における資格取得指導の体系化には依然として課題が残ります。

表コミの職場体験におきましては、学内外の様々な施設において希望者のみならず必要性の高い生徒に対して実施しております。カリキュラムにおきましても、ゲストティーチャーの招へいや実習前研修、ライフスキル授業などを体系的に展開しております。国際学科においても職業インタビューを実施いたしました。職業教育の形態につきましては、過去の一斉型インターンシップから個々のキャリアビジョンに応じた形態へと、時代の変化に合わせた展開を図っております。

(教職員)

本校では教員のスキル向上に向け、大阪 YMCA 主催のセミナーへの参加を促しているほか、表コミ講師会等において教員の取り組み事例などを発表・共有しております。今年度におきましても教員同士による相互授業見学を実施したほか、毎年 8 月には公開授業を行っております。また、教員には学年当初または学期当初にシラバスの提出を求め、部門責任者が内容を確認のうえ、必要に応じて指導を行っております。

教職員研修につきましては、職員および常勤教員を対象として大阪 YMCA 全体で安全研修と人権研修がそれぞれ年 2 回実施されております。また、高校生事業部におきましても年間研修計画を作成し、救急法や対象理解に関する研修を実施いたしました。さらに、高等課程主催の一般教職員向けセミナーや、他団体が主催するカウンセリング研究会、モデル校見学、各種教員研修等への積極的な参加を促しており、研修に関する自己評価は 3.7（昨年度：3.5）と前年を上回る非常に高い評価を得ております。日常の業務遂行に向けた指導におきましても、OJT の視点を重視しながら実践の中で行なっております。

各学科におきまして２ヶ月に１回開催しているアドバイザリー会議につきましては、学校運営に対する客観的なご意見・ご助言をいただく貴重な機会として、今後も継続して取り組んでまいります。

②今後の改善方策

国際学科におきまして、成績・進級基準や到達目標について教職員間でこれまで以上に明確化を行い、十分な共有を図ってまいります。授業評価の実施を定着させ、その結果を授業改善（FD）へ具体的に反映させる仕組みづくりを進めてまいります。資格取得の実績について学科全体で成果を共有し、国際学科を中心にカリキュラムにおける体系的な指導体制の強化に努めてまいります。地域や外部団体と連携した体験活動のさらなる拡充を図ってまいります。

(4) 学修成果

①現状と課題

・進学率の向上について

本校では、課程の特色に基づき、進学希望者に対して各担当者（大学：国内・海外、専門学校、職業訓練校）が生徒一人ひとりの希望に応じた計画的な進路指導を行っております。保護者に対しましても、１年次から適切な時期に進路ガイダンスを実施し、学校と家庭が連携して支援を行っております。設問「進路決定は主体的に行われているか」における自己評価は 3.6 と大項目内で最も高く、国際学科の高い進学・留学実績を含め、生徒の主体性を重んじた進路選択が定着しております。

・資格取得率の向上について

本校は資格取得のみを主目的とする学科構成ではありませんが、英検、漢検、P 検等につきましては体系的な指導のもと、生徒の学習意欲を高める動機づけとして資格取得を図れるよう努めております。設問「資格取得率の向上」における自己評価は 2.9 となっており、意欲向上に向けた指導体制のさらなる充実が求められます。

・生徒指導と退学率の低減策について

複数担任制を導入し、ホームルームやショートホームルームを通じて日々の様子を把握するとともに、生徒の学習および学校生活に関する情報を教職員間で連携・共有することにより、退学者数の低減に努めております。設問「退学を予防する仕組み・退学率の低減」における自己評価は 3.1 となっており、退学予防に向けた支援体制が有効に機能しております。

・学習の定着について

昨年度に評価が低下した「学習の定着（昨年度：2.6）」につきましては、昨年度の改善方策に基づき、今年度は「学習内容の定着」と「学習習慣の定着」に設問を改定・細分化いたしました。その結果、「学習内容の定着」は 3.4、「学習習慣の定着」は 3.1 へと回復が見られ、一定の成果を得ることができました。ただし、国際学科におきましては学習習慣の定着に対する評価が慎重であり、自主的な学習態度の定着に向けたアプローチが引き続き課題となっております。

・卒業生・在校生の社会的な活動及び評価を把握しているか

在校生はもちろんのこと、卒業生の進路・就職等の動向把握におきましても継続して努めております（自己評価：3.3）。「地域の成人式に出席しづらい」という生徒の声に応え、卒業後には「二十歳の成人祝福礼拝」を実施しております。また、卒業生に対しては月に１回の特別活動や年に１回のアンケート調査を実施しているほか、メーリングリストを活用した学校行事やボラ

ンティア活動への参加案内を行っております。さらに、大阪市不登校通所事業や尼崎市教育支援室の業務委託を受け、本校卒業生がメンタルフレンドとして活躍するなど、就労移行支援としての役割も果たしております。卒業後の相談支援も継続的に受け付けており、設問「進路把握を教育改善に活用しているか」におきましても 3.3 と高い評価を得ております。

②今後の改善方策

資格取得の実績につきまして、進路担当者にとどまらず学科全体で成果を共有し、生徒の学習動機づけに資する適正な指導体制を強化してまいります。学習習慣の定着に向け、特に国際学科におきまして自学自習の促進や課題管理の工夫を行い、教職員間における指導方針の連携を深めてまいります。両学科の卒業生が新たな進路で力を発揮できるようカリキュラムの改善を進めるとともに、教育活動に寄与する卒業生との繋がりを組織化し、持続的なネットワークの構築およびご寄付等の要請を進めてまいります。

(5) 生徒支援

①現状と課題

・進路および生徒相談に関する支援体制について

本校では、国内外の大学・専門学校等への進学相談に対応する複数の進路指導担当者に加え、各クラスに複数の担任を配置し、生徒一人ひとりの志望や能力・資質に応じた進路指導と教育相談を展開しております。

担任のみが対応するのではなく、学校全体での支援体制を整えており、保護者や医療機関、場合によっては出身中学校等とも連携を図りながら支援を行っております。設問「生徒・保護者からの相談体制は整備されているか」は 3.7、「保護者と適切に連携しているか」は 3.4、「生徒の課題や特性に合った支援ができているか」は 3.6 と、今年度も高い評価を維持しております。大項目全体の自己評価におきましても 3.4（両学科とも：3.4）と極めて安定しており、手厚い支援体制が全校で共有されております。

表コミにおきましては、大学生からシニア層まで多様なボランティアが授業や休み時間における生徒支援を行っております。また、大学や専門学校との連携によるインターンシップや実習の受け入れを通じ、生徒にとって多様な出会いと成長の機会を創出しております。

両学科ともに週 1 回のペースで生徒支援会議を実施しております。また、必要に応じて緊急会議や継続生徒支援会議を開催し、一人ひとりの生徒に対して丁寧な支援を行っております。保健室の養護教諭やカウンセラー、特別支援教育コーディネーターとの十分な連携体制が構築されており、重篤なケースにおきましては、併設する総合教育センターや他機関（病院等）へのスムーズな誘導・連携も行っております。

上述のとおり非常に充実した支援体制を整備している一方で、手厚さを維持するための教職員への負担増加や人的リソースの不足は常に課題となっており、教職員が多大な時間を費やす状況への対策が求められております。

②今後の改善方策

外部機関やボランティアとの連携を強化・拡大し、教職員の負担軽減を図ってまいります。業務における ICT の活用をより一層推進し、業務効率化と指導体制の充実を推進してまいります。キャリア教育につきましても外部講師による授業を継続的に実施し、生徒の将来像形成を多面的に支援してまいります。

(6) 教育環境

①現状と課題

・施設・設備等について

本校では、専修学校の設置基準に基づき、生徒が快適に学習へ専念できるスペースおよび施設・設備を確保しております。また、それらの整備状況を各課程・学科の責任者が常に把握し、使用状況、使用計画、使用内規の策定や生徒に対する使用案内を行っております。

施設・設備のメンテナンスにつきましては、責任者から提出されるレポートをもとに校内会議等で検討し、防災センターによる一括管理と更新計画に基づいて計画的に実施しております。

設問「教育環境」の大項目平均は今年度 3.1 となり、昨年度の 2.9 から改善いたしました。しかしながら、「施設・設備は十分対応できるよう整備されているか」の自己評価は 2.6（と依然として低く、普通教室や特別教室の確保に課題が残っております。一方、「生徒の課題や特性にあった合理的配慮、環境整備」は 3.4 と高く、個別支援に応じた環境整備が進んでおります。なお、端末環境につきましては国際学科の BYOD（一人一台の端末を持参）、表コミの BYAD（学校管理の一人一台 iPad 端末持参）が定着し、ICT を活用した学習基盤となっております。

・職場実習、海外研修等について

高等課程では職場実習や海外研修に積極的に取り組んでおり、設問「実習施設、インターンシップ、海外研修の場の教育体制整備」の自己評価は 3.4（表コミ：3.3、国際学科：3.6）と高い評価を得ております。

外部関係機関・企業との連携による職業訓練校見学や大学のオープンスクール参加、職場実習などを、生徒の職業観を育む一環として位置づけております。また、ソウル YMCA との連携による「韓国スタディツアー」をはじめ、多感な時期におけるアジアやニュージーランドでの海外研修は、人間的な成長を豊かに促す機会となっております。さらに、国際学科においてはデンマークの高等学校との連携協定を締結し、修学旅行での相互訪問およびホームステイ体験を実現させており、生徒の大きな成長を実感しております。

・防災に対する取り組みについて

毎年、法令に基づいた防災訓練を行っております。大阪 YMCA の「安全管理ガイドライン」に基づき本校の防災マニュアルを作成し、要員の配置と役割の明確化を図りながら訓練を実施しております。従来の火災想定に加え、地震や津波の発生を想定した訓練も実施しております。さらに、高等課程独自のマニュアル作成や救急法講習を毎年実施しているほか、非常連絡先カードの全員提出や傷害保険への加入など、万一の事態に備えた体制を整えております。

今年度の設問「防災に対する体制整備」の自己評価は 2.9 となりました。昨年度の課題であった国際学科におきましては 3.2 へと意識の向上が見られた一方、全校的な体制整備および実効性の向上に向けましては、引き続き継続的な取り組みが必要と考えております。

・学校行事について

設問「適切な時期に適切な学校行事を実施できているか」は 3.6 と非常に高い評価を得ております。表コミにおきましては、3 年生が広島で平和記念公園を含む碑めぐりや被爆者の講話を聴講し、2 年生は YMCA 阿南国際海洋センターでの海洋プログラムを通じて仲間づくりを行いました。国際学科におきましても、阿南での海洋プログラム、デンマークとの交換留学、スキー実習などの教育行事を着実に実施いたしました。国際交流や体験学習を希望して入学した生徒が多く、満足度の高い取り組みとなっております。また、両学科ともに課題学習発表会（プレゼン大会）を実施しており、生徒自らが課題を設定し、対話的で協働的な深い学びの成果を発表する場として位置づけております。

②今後の改善方策

施設・設備の更新を計画的に進め、限られた学習スペースのさらなる有効活用を図ってまいります。また、学校行事や各種研修につきましては安全確保を徹底しつつ、体験学習の充実を図ってまいります。防災体制の実効性をより一層高めるため、避難訓練の検証や非常時マニュアルの周知徹底を図り、全校的な仕組みづくりを進めてまいります。

(7) 生徒の受入れ募集

①現状と課題

・生徒募集活動について

本校では、生徒の募集活動における内容や手法につきまして、教育機関としての節度を持ち、適正に行うよう努めております。広報に用いるパンフレットやWebサイトにおきましても、教育内容や進路・進学実績等を生徒や保護者の立場から分かりやすく理解できるよう、常に意識して作成しております。表コミにおきましては、2022年度より定員を50名とし、より多くの生徒を受け入れられる体制を整えました。両学科ともに学内における説明会や個別相談に対し、適切な対応を行うための研修を実施しており、相談後におきましても入学に至るまでの丁寧なフォローアップを行っております。

今年度の自己評価は大項目平均で3.4となり、すべての項目で3.4以上と極めて高い評価を維持いたしました。募集活動の適正性（3.4）や中学校等への情報提供（3.4）につきましても高水準を維持しております。昨年度の課題であった設問「教育成果は正確に伝えられているか」につきましては全体で3.4となり、特に国際学科におきましては3.6と高い評価を得ました。これは、昨年度懸念されていた英語力向上等の教育成果の伝達や、学校訪問専属担当者との連携が定着し、成果の可視化が進んだ結果と考えております。

・入学選考について

入学選考を適正かつ公平に実施するため、募集要項におきまして入学選考方法および評価基準を明確に明記しております。

・生徒納付金について

理事会および評議員会におきまして、各課程・学科における入学金、授業料、実習費等の生徒納付金が、生徒数、教育内容、教育環境等に照らし適切かつ妥当なものであるかを慎重に検討・検証した上で決定しております。設問「生徒納付金の妥当性」の自己評価は3.5と、今年度も高い評価を得ております。

②今後の改善方策

教育成果をより明確に生徒募集へ還元するため、教育成果の実感を促す「可視化（見える化）」を継続して推進してまいります。表現・コミュニケーション学科におけるアウトカム評価（ソーシャル・インパクト・アセスメント）の活用や、国際学科における語学力向上・進路実績等の具体的な成果発信を通じ、受験生や保護者、中学校関係者に対して本校の教育的価値をより的確に発信してまいります。

(8) 財務

①現状と課題

・学校の財務基盤について

本校では、本部事務局と学校法人本部が連携し、学校の財務基盤に関する中長期計画を策定しております。また、執行状況につきましては毎年半期ごとの理事会・評議員会における点検・審査を経て、財務状況ならびに資産・資金内容の適切な管理を行っております。

課題におきましては、設問「中長期的な財務基盤の安定」の自己評価が 2.6 と低く、国際情勢や社会経済状況の変化等に左右されない安定した財務基盤の確立が求められております。

・予算・収支計画について

予算および収支につきましては、中長期計画ならびに年度計画に基づいて計画的に執行しております。予算・収支の総額および収支各項目の妥当性につきましては、理事会・評議員会において点検・審査を行っており、予算上の課題や今後の動向に関しては業務組織に対する必要な指摘や指導を行っております。設問「予算・収支計画の妥当性」の自己評価は 3.0 となっております。

・会計監査について

半期ごと（年 2 回）に監事による会計監査および監査法人による会計監査を適正に実施しており、その結果を理事会ならびに評議員会へ速やかに報告しております。

・財務情報の公開

自己点検・自己評価の結果を公開するとともに、財務情報につきましても積極的な公開を行っております。設問「会計監査の実施」につきましては 3.4、「財務情報の公開」につきましては 3.2 となり、昨年度に低下していた評価（双方：3.1）からの改善が見られました。適正な実施状況やその意義が、全校の教職員に確実に共有されつつある結果と考えております。

②今後の改善方策

安定した収入基盤を確立するため、国際学科におきましては留学する生徒の増加に伴うクラス運営とのバランス調整や、留学時期に関するルールの厳格な運用を徹底し、安定した学校運営を維持してまいります。表現・コミュニケーション学科におきましては、定員の着実な充足を図るため、教育活動の更なる充実と広報体制の強化を一体となって推進してまいります。

(9) 法令等の遵守

①現状と課題

・本校におけるコンプライアンスについて

本校では、学校法人本部および本部事務局に法律の専門家を顧問として配置し、新制度や各種規則の制定、各種届出等の際に多角的な事前確認を行うなど、法令を遵守する体制を厳格に構築しております。あわせて、各本部への定期的な報告を通じて、各種運用が適切に行われているかを継続的に検証しております。設問「法令等の遵守と適正な運営」の自己評価は 3.4（両学科とも：3.4）と、今年度も安定した高評価を得ております。

・個人情報の保護対策について

本校では、2005 年以来、大阪 YMCA で定められた個人情報保護ガイドラインに基づき、本校に必要な個人情報の適切な保護と管理を学校法人本部主導のもとで運用しております。また、毎年の講師会におきまして常勤・非常勤の教職員に対して個人情報保護のルールや取り扱いに関する注意喚起を行い、徹底した保護に努めております。設問「個人情報保護の取り組み」の自己評価は 3.6 と高い水準を維持しております。

・自己点検・自己評価の実施・改善と結果公開について

本校では 2008 年度より自己点検・自己評価の実施をはじめ、生徒・保護者アンケートを取り入れるとともに、その結果を積極的に公開しております。今年度は設問「自己評価の実施・改

善」が 3.6、設問「結果の公開」が 3.7 とともに対比評価が高く、大項目全体におきましても両学科とも 3.6 となり、全評価項目の中で最高水準の評価を維持しております。

②今後の改善方策

前項目に引き続き、自己点検・自己評価の実施および結果公表を徹底するとともに、教職員全体で評価結果と課題を共有し、教育活動の更なる改善（PDCA サイクル）を継続して推進してまいります。

(10) 社会貢献・地域貢献

①現状と課題

本校では、YMCA の特色を活かし、数多くの社会教育活動に取り組んでおります。学校行事としてのボランティア活動はもとより、YMCA 全体行事や土佐堀地域活動委員会、サポートクラブであるワイズメンズクラブとの連携、さらには大阪市や西区役所をはじめとする行政との連携を通じ、多岐にわたる社会貢献・地域貢献活動を生徒とともに実施しております。

地域に対する公開講座や教育訓練におきましては、高等課程内に設置されている YMCA 総合教育センターを中心に、一般の方々や他校教職員を対象として実施しております。オンライン講座の導入により、さらに広範囲かつ多くの方にご受講いただける体制が整いました。設問「公開講座等の受託」の自己評価は 3.1 と一定の評価を得ております。

両学科協働で取り組む「アートで社会と繋がる活動」では、淀川キリスト教病院の館内装飾や福祉施設の七夕飾りの制作を実施いたしました。また、大阪メトロ肥後橋駅からの依頼を受けて生徒作品の展示を行うなど、地域社会との連携を定着させております。さらに、いじめ防止活動の一環として取り組む「ピンクシャツデイ」や、地域コミュニティ形成のための「とさぼりカーニバル」を学校行事として位置づけております。今年度の「とさぼりカーニバル」も地域の子どもたちや保護者等、多数の来場者を迎え、活動を通じて得られた収益を寄付することができました。設問「生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか」の自己評価は 3.6 と非常に高く、特に国際学科において主体的な参画が見られます。設問「教育資源等を活用した社会貢献・地域貢献」におきましても 3.2、大項目全体でも 3.3 と安定した成果が確認されました。

なお、大阪市や尼崎市より不登校支援事業の受託を受けて 3 拠点の運営を行うとともに、付随事業として公立学校への研修等も実施しております。今後は、これらの社会貢献事業が本校の重要な教育成果であることを教職員全体へ周知・共有し、さらなる理解深化を図ってまいります。

②今後の改善方策

前項目に引き続き、地域貢献活動におきましては、不登校支援事業の受託や付随事業等の成果について全教職員への周知・共有を徹底し、教育活動への理解深化と連携強化を図ってまいります。

(11) 国際交流

①現状と課題

国際学科を中心に、デンマークとの交換留学をはじめ、アジア地域やニュージーランドでの研修を実施いたしました。自己評価の大項目平均は 3.6 となり、設問「法令等の遵守」と並び全項目の中で最高水準の評価を得ております。特に設問「YMCA のネットワークを活かした国際交流プログラム」が 3.6、「多様性を活かした活動」が 3.5 と高く評価されております。

同一法人内の大阪 YMCA 国際専門学校にはビジネス専門課程を中心に留学生が 400 名以上在籍しており、本校の国際学科におきましても外国籍や外国にルーツを持つ生徒を 5 割近く受け入れております。設問「外国語や外国にルーツを持つ生徒の入学しやすさ」の自己評価は 3.8 と全評

価項目の中で最高レベルであり、「指導体制の整備」（3.4）とともに十分な日本語教育を提供するなど、受入環境を良好に維持しております。また、法人内にインターナショナルスクールを擁し、世界各国の YMCA ネットワークを活用できるなど、生徒が多様な文化的背景を持つ人々と日常的に接することができる非常に恵まれた教育環境を有しております。

②今後の改善方策

「校内が小さな地球である」という視点のもと、今後も校内の多様性を最大限に生かし、生徒たちがグローバルな視野で平和や社会課題について主体的に考えられるよう、多様な学びや体験の機会を継続して提供してまいります。

Ⅲ．2025 年度外部アンケートについて

（1）全体的な傾向

今年度も在校生・卒業生およびその保護者を対象に各種アンケートを実施し、学校運営や教育活動に関する評価を多角的に把握いたしました。回答結果は昨年度と同様、全体的に高い評価となっております。学校関係者評価におきましても、今年度も外部アンケートにおける評価の高さに言及いただき、非常に高い評価を頂戴いたしました。とりわけ「授業のわかりやすさ」において在校生 92%、卒業生 81%、「教職員の相談対応」に関しても在校生 85%、卒業生 91%（保護者におきましては 94～96%）と、非常に安定した高い評価を得ております。

保護者アンケートでは「この学校に入学させてよかった」との回答が在校生保護者で 97%、卒業生保護者で 94%と非常に高い割合を示し（生徒本人につきましても在校生 86%、卒業生 88%）、本校への信頼感は確固たるものとなっております。特に「教職員は親身に相談にのってくれる」という評価は、生徒・保護者双方から一貫して高く、学校全体の安心感を支える大きな要素となっております。

（2）項目毎の現状・課題と改善方策（在校生・卒業生）

（1）学習態度

①現状と課題

本項目は生徒自らの基本的生活習慣や授業態度等について問う設問ですが、在校生におきましては遅刻（肯定率：62%）および欠席（肯定率：62%）に関する設問に対し、「そう思わない（否定）」と回答した割合（それぞれ 2 割強）の多さが目立っております。これは本校の特性上、不登校経験を持つ生徒が多く在籍していることが一因と考えられます。なお、それ以外の設問項目におきましては、概ね高い評価が得られております。

遅刻や欠席の多い生徒に対しては補講を実施するとともに、その振り返り面談を通じて改善策を個別に検討・指導しております。卒業生におきましては欠席に関する肯定評価が 68%まで上昇していることから、3 年間の在学期間を通じて生活習慣や登校状況に一定の改善成果があったことが窺えます。

②今後の改善方策

遅刻や欠席の傾向が見られる生徒に対しましては、引き続き個別の振り返り面談等を通じて生活習慣の改善策を共に検討し、安心感をもって登校できる環境づくりと自律的な生活リズムの確立を目指してまいります。

（2）授業

①現状と課題

各評価項目におきましては、概ね80%以上が「そう思う」または「ある程度そう思う」との回答となっております。生徒にとって満足度の高い授業が実践されている結果と受け止めております。また、習熟度別クラスの編成につきましても、単に成績や点数で機械的に区分するのではなく、生徒本人の心情や意向を尊重して丁寧に行っている姿勢が評価に反映されているものと考えられます。とりわけ設問「授業はわかりやすい」におきましては、在校生の92%（昨年度の76%から大幅向上）、卒業生の81%が肯定的な評価を示しており、日頃の教員の授業改善への取り組みが成果として顕現しております。

(3) 学校行事

①現状と課題

設問「学校行事は楽しみである」におきましては、「あまりそう思わない」「そう思わない（否定）」と回答した割合が在校生で22%、卒業生で23%となりました。行事に対して苦手意識を持つ生徒も一定数存在する中、事前の丁寧な準備や案内等を徹底したことにより、昨年度の数値（在校生：24%、卒業生：28%）よりも否定的な回答を低く抑えられております。特に国際学科におきましては肯定的な評価が在校生で89%、卒業生で83%と非常に高い水準を示しており、生徒自らが学校行事を企画・運営する機会の多いカリキュラムの特長が良好な評価として反映されているものと受け止めております。

②今後の改善方策

学校外の多様な人々と協働する機会として多くの学校行事を実施しており、その準備にも十分な時間を設定しております。一方で、不登校経験が長く集団活動の経験が少ない生徒が多く在籍する表コミにおきましては、学校行事への参加に対して精神的なハードル（敷居）の高さを感じている現状も認識しております。今後は生徒一人ひとりの状況に配慮し、行事への参加形態や取り組み方の工夫をさらに重ねてまいります。

(4) 生徒支援

①現状と課題

本項目におきましては、両学科ともに非常に高い評価となりました。設問「教職員等は親身に相談にのってくれる」に対しましては、在校生の85%、卒業生の91%が肯定的な回答を示しております。これは複数担任制の運用をはじめ、教職員が生徒一人ひとりに対して手厚く関わり続けてきた姿勢が結実したものと考えられます。

特に設問「クラス担任・教職員は信頼できる」におきましては、在校生の83%、卒業生の86%から高い評価を得ております。中でも国際学科の卒業生におきましては、67%が「4：そう思う（最高評価）」と回答しており、日頃の教育活動を通じて生徒との間に強固な信頼関係を構築できた成果と受け止めております。

(5) 学校生活全般

①現状と課題

設問「学校の理念・方針（スクールモットー）」への理解におきましては、国際学科で在校生の93%（うち「4：そう思う」が52%）、卒業生の79%が肯定的な評価を示しており、本校の理念が生徒へ十分に浸透していることが窺えます。

また、設問「多様性を尊重しあえる環境」につきましても、在校生の88%（国際学科：91%、表コミ：86%）、卒業生の81%が肯定的な評価をしております。「Celebrate Our Differences（違いを認め合い、祝福する）」をスクールモットーの核に掲げる本校として、建学の理念が日頃の教育実践の中で十分に体現されている証証であると受け止めております。

(3) 項目毎の現状・課題と改善方策（保護者）

(1) 学校運営全般

①現状と課題

全 10 の評価項目のうち、設問「この学校にお子様を入学させて良かった」におきましては、在校生保護者の 97%（表コミ：100%）、卒業生保護者の 94%から肯定的な回答が得られました。また、設問「教育理念・方針」「合理的配慮」「美化活動」の各項目につきましても、在校生・卒業生の保護者ともに 94～98%と非常に高い評価を頂戴いたしました。その他の項目におきましても、在校生・卒業生の保護者ともにほぼすべての項目で 90%前後の高い肯定率となっております（唯一、設問「施設や設備は充実しているか」におきましては在校生保護者：83%、卒業生保護者：84%にとどまりました）。

(2) 教育内容

①現状と課題

全 8 つの評価項目のうち、設問「授業や実習・学校行事は役に立つ」「人として育つ内容」「教育内容はお子様にあっている」「学校行事の内容・回数」などの項目におきまして、在校生・卒業生の保護者ともに 91～97%と高い肯定的な評価を頂戴いたしました。全体として在校生保護者からは 7 つの項目、卒業生保護者からは 6 つの項目で 90%以上の高い肯定率を得ており、本校の教育内容に対して深い理解と賛同が得られているものと受け止めております。

一方で、設問「学校行事以外でも生徒が活動できる場が充実している」におきましては、肯定的な評価が在校生保護者で 88%、卒業生保護者で 85%（否定的な評価である「あまりそう思わない」が 12～13%）となり、他の項目と比較してやや慎重な評価にとどまりました。本項目に関しましては、今後もボランティア活動や海外研修、地域行事への積極的な参加機会を設定し、学校行事以外での多様な活動場面の拡充を図ってまいります。なお、設問「ICT 活用の適切な実施」におきましては、在校生保護者の 96%に対し卒業生保護者は 88%となりましたが、これは近年の表コミにおける「一人一台 iPad 体制」の定着と成果が顕著に反映された結果と考えられます。

(3) 健康管理

①現状と課題

設問「健康面での対応」におきましては、在校生保護者の 97%、卒業生保護者の 97%と、極めて高い肯定的な評価をいただきました。

②今後の改善方策

・生徒の健康管理は安全・安心な学校生活の根幹をなす重要課題であり、思春期における身体と心の基盤づくりは将来にわたっても大きな影響を与えます。今後も感染症予防をはじめとする日々の健康観察を徹底・継続するとともに、ご家庭との緊密な連携のもと、生徒一人ひとりの心身の健全な成長を見守ってまいります。

(4) 生徒支援

①現状と課題

保護者アンケートにおきましては、すべての設問項目において否定的な回答（「そう思わない」）が極めて少なく、特に生徒への対応に関しましては 9 割台半ばの保護者から肯定的な評価を頂戴いたしました。また、卒業生保護者におきましては全項目で 90%以上の肯定率となりました。

特に設問「お子様には親身に適切に対応している」におきましては、在校生保護者の 96%（表コミ：100%）、卒業生保護者の 94%（国際学科：100%）と非常に高い数値を示しており、日頃の支援を通じて保護者からの確固たる信頼を獲得できている成果と受け止めております。本校では日々の生徒の様子を担任から家庭へ丁寧に連絡しているほか、特定の教員に抱え込ませるのではなく、週 1 回の生徒支援会議などを通じて学科・教職員全体で組織的に生徒をサポートしております。設問「生徒間のトラブルの対応」におきましても在校生保護者で 88%、卒業生保護者で 94%、設問「学校は家庭と連携した生徒支援ができている」におきましても在校生保護者で 94%、卒業生保護者で 97%の評価を得ており、連携体制に対する満足度の高さが窺えます。今後も学校と家庭の密接な連携のもと、生徒一人ひとりを手厚く支援する体制を堅持・発展させてまいります。

②今後の改善方策

複数の担当者を配置することで多面的に支援できる体制を継続して整えるとともに、必要に応じて養護教諭やスクールカウンセラー、YMCA 総合教育センターとの連携を図り、包括的に生徒を支援してまいります。また、複数担任制を活用することで生徒間のトラブルにも迅速かつ丁寧に対応し、保護者との適切な連携・共有に努めてまいります。

(5) 保護者

①現状と課題

設問「保護者会や PTA 活動（の実施内容・頻度）」におきましては、両学科ともに高い評価となりました。約 9 割の保護者から肯定的な評価を頂戴しており、卒業後も保護者活動に参加していただける仕組みづくりを行っていることが高評価の一因と考えられます。

②今後の改善方策

表コミにおきましては、保護者交流会の中で卒業生保護者と在校生保護者が継続して交流・情報共有できる機会や仕組みを構築・拡充してまいります。

(6) 情報公開

①現状と課題

設問「学校の HP はわかりやすい内容になっている」におきましては、在校生保護者の 94%、卒業生保護者の 94%から高い肯定的な評価をいただきました。また、一斉配信システム「さくら連絡網」におきましても、在校生保護者の 93%、卒業生保護者の 97%から肯定的な評価を頂戴しております。

②今後の改善方策

今後もホームページや「さくら連絡網」等の情報発信ツールを効果的に活用し、保護者や関係者の皆様に向けて迅速かつ適切な情報をタイムリーに発信してまいります。

以　上

2025年度 専修学校における学校評価 項目別の自己評価表
国際高等課程

評価項目の達成及び取り組み状況　4:高い～1:低い		自己評価
(1)教育理念・目的・人物育成人材像		3.2
1	学校の理念・目的・育成人材像は定められているか	3.4
2	学校における人間教育その他の教育指導等の特色は明確か	3.4
3	社会のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	3.0
4	学校の理念（スクールモットー）・目的・育成人材像・特色・将来構想などが、生徒学生・保護者等に周知がなされているか	3.2
5	各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する分野のニーズに向けて方向づけられているか	3.1
(2)学校運営		3.1
1	目的等に沿った運営方針が策定されているか	3.2
2	運営方針に沿った事業計画が策定されているか	3.1
3	組織運営上有効な意思決定が行われているか	3.0
4	運営会議や判定会議等、必要な意思決定に自分が参加できている実感があるか	3.5
5	人事、給与に関する規定等は整備されているか	2.9
6	教育・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	3.1
7	教育活動に関する情報公開が適切になされているか	3.2
8	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	2.9
(3)教育活動		3.2
	目標の設定等	3.1
1	教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	3.1
2	教育理念、育成人材像を踏まえた学科の教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	3.1
	教育方法・評価等	3.2
3	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	3.3
4	卒業後の自立を見据え、地球市民として活きていくためのカリキュラムや教育方法の工夫・開発が実施されているか	3.1
6	実践的な職業教育（キャリア教育、体験の機会等）が体系的に位置づけられているか	3.1
7	授業評価の実施・評価体制はあるか	3.0
8	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	3.1
	資格試験	3.0
9	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか（P検・漢検・英検）	3.0
	教職員	3.4
10	人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	3.1
11	関連分野における研修や教員の指導力育成などの資質向上のための取り組みが行われているか	3.1
12	教職員の研修等が行われているか	3.7
13	適切な時期に適切な学校行事を実施できているか。また、生徒が主体的に参加できているか。	3.6
14	学校内外の活動の情報提供を行っているか	3.4
(4)学修成果		3.3
1	進路決定は主体的に行われているか	3.6
2	資格取得率の向上が図られているか	2.9
3	退学を予防する仕組みが整っていて、退学率の低減が図られているか。	3.1
4	学習内容の定着が図られているか	3.4
5	学習習慣の定着が図られているか	3.1
6	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3.3
7	卒業生の卒業後の進路を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3.3
(5)生徒支援		3.4
1	進路・就職に関する支援体制は整備されているか	3.4

2	生徒・保護者からの相談体制は整備されているか	3.7
3	生徒に対する分納・延納等の経済的な支援体制を整備しているか	3.9
4	生徒の健康管理を担う組織体制はあるか	3.3
5	課外活動に対する支援体制はあるか	3.3
6	生徒の生活環境への支援は行われているか	3.1
7	生徒の課題や特性に合った支援ができているか	3.6
8	保護者と適切に連携しているか	3.4
9	卒業生への支援体制はあるか	3.4
10	社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3.4
11	大学・専門学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組みが行われているか	3.1
(6)教育環境		3.1
1	施設・整備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	2.6
2	生徒の課題や・特性（認知の課題・資格等）にあった合理的配慮、環境整備があるか	3.4
3	学校内外の実習施設、インターンシップ、海外研修の場等について十分な教育体制を整備しているか	3.4
4	防災に対する体制は整備されているか	2.9
(7)学生の受け入れ募集		3.4
1	高等学校／中学校等接続する機関に対する情報提供等の取組みが行われているか	3.4
2	生徒募集活動は、適正に行われているか	3.4
3	生徒募集活動において，教育成果は正確に伝えられているか	3.4
4	生徒納付金は妥当なものとなっているか	3.5
(8)財務		3.0
1	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	2.6
2	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	3.0
3	財務について会計監査が適正に行われているか	3.4
4	財務情報公開の体制整備はできているか	3.2
(9)法令等の遵守		3.6
1	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	3.4
2	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	3.6
3	自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	3.6
4	自己評価結果を公開しているか	3.7
(10)社会貢献・地域貢献		3.3
1	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献（不登校支援など）・地域貢献を行っているか	3.2
2	生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	3.6
3	地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	3.1
(11)国際交流		3.6
1	外国語や外国にルーツを持つ生徒も入学しやすい状況か	3.8
2	YMCAのネットワークを活かした国際交流プログラムを行っているか	3.6
3	外国籍生徒の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	3.4
4	留学生・外国籍生・海外交流プログラムなど多様性を活かした活動を行っているか	3.5
全体平均		3.3